

教育研究上の目的（大学院）

文学研究科

人文科学・社会科学の学問をそれぞれの学問的な特性を尊重しつつ、理論的な探求から実証的研究、先端的な実験・実習までをとり込んだ創造的かつ実践的なカリキュラムを用意し、言語と人間、歴史と文化、心と身体といった普遍的なテーマについて思索を積み重ね、社会的貢献度の高い研究者・教育者など、ゆたかな知性と感性を持った人材を養成する。

（哲学専攻／博士前期課程）

哲学・宗教学・倫理学・美学の各分野を柱にした講義と演習によって学識を養い、人材を養成する。

（哲学専攻／博士後期課程）

専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、個人指導を中心に、さらに深い研究能力を身につけ、人材を養成する。

（史学専攻／博士前期課程）

日本史・東洋史・西洋史・考古学に分かれ、自己の研究を深め、学識豊かな人材を養成する。

（日本史専攻／博士後期課程）

日本史、または、考古学の分野において、自己の研究課題についてさらに専門的に研究し、それぞれが研究者として自立できるように指導し、より高度な学識を持った人材を養成する。

（外国史専攻／博士後期課程）

東洋史、または、西洋史の分野において、自己の研究課題についてさらに専門的に研究し、それぞれが研究者として自立できるように指導し、より高度な学識を持った人材を養成する。

（国文学専攻／博士前期課程）

日本文学と日本語学の、上代から現代までを研究対象とし、実証的な研究及び最新の理論に基づく研究をし、人材を養成する。

（国文学専攻／博士後期課程）

専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び基礎となる豊かな学識を養い、人材を養成する。

（中国学専攻／博士前期課程）

中国及び中国語圏の言語と文化について、古代から現代までを研究対象とし、文献学的な実証研究及び先進的な理論に基づく研究、及び専門的かつ多様な学識とその運用能力の修得、養成を図る教育を行い、高度な学識と広い視野に立ち、柔軟で自立的な判断力を持つ中国学の専門家を養成する。

（中国学専攻／博士後期課程）

中国学に関する専門的で幅広い教養の上に立ち、専攻領域においてさらに高度な研究能力を養い、研究の発展に必要な学識をいっそう深め、人文科学の発展に寄与し得る、自立した研究活動を行うことができる中国学の専門的研究者を養成する。

（英文学専攻／博士前期課程）

英米文学・英語学・英語教育の各分野に関する講義と演習を通して学識を養い、その研究の基礎を築き、各方面で活躍できる専門家を養成する。

（英文学専攻／博士後期課程）

専攻分野について、研究者として自立した研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び基礎となる豊かな学識を深め、人材を養成する。

(ドイツ文学専攻／博士前期課程)

ドイツ語圏の文学・文化・語学の研究及び高度なドイツ語力の養成を目的とし、柔軟な判断力を備えたドイツ研究の専門家を養成する。

(ドイツ文学専攻／博士後期課程)

専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び基礎となる豊かな学識を養い、人材を養成する。

(社会学専攻／博士前期課程)

社会学コースでは、現代のさまざまな社会現象を分析・解明することを主たる研究目的とし、社会福祉学コースでは、社会保障及び社会福祉問題等の解決・調整を図ることを主たる目的とする。本専攻では、それぞれの学問分野を柱に、幅広い知識と視野を身に付けた人材を養成する。

(社会学専攻／博士後期課程)

専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び基礎となる豊かな学識を養い、人材を養成する。

(教育学専攻／博士前期課程)

教育学及び体育学の学問分野を柱に、基礎的研究能力を有する研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識をもった人材を養成する。

(教育学専攻／博士後期課程)

専攻分野について研究者として高度な研究能力をもつ、研究活動を自立的に遂行しうる優れた研究者を養成する。

(心理学専攻／博士前期課程)

心理科学及び臨床心理学の学問分野を柱に、基礎から応用まで幅広く学べるカリキュラムで研究を行い、心理科学コースでは心理科学の研究者や科学的視点をもつ公認心理師として、臨床心理学コースでは公認心理師及び臨床心理士として社会に貢献できる人材を養成する。

(心理学専攻／博士後期課程)

専攻分野について研究者として高度な研究能力をもつ、研究活動を自立的に遂行しうる優れた研究者を養成する。

理工学研究科

自然環境を護り、社会倫理を尊び、学術の理論及び技術の深奥を究め、世界の平和と人類の福祉に貢献できる高度な専門的能力を有する人材を養成する。

(地理学専攻／博士前期課程)

地形や気候を扱う自然分野、農山村や都市を対象とする人文分野、GIS（地理情報システム）を中核とする地理情報分野、環境地理学分野、これらを統合する地誌学の分野があり、実験実習やフィールドワークを重視し、研究を行い、実務的技術を習得し、創造性豊かで実践的かつ高度な研究能力を備えた研究者、教育者、実務者などを養成する。

(地理学専攻／博士後期課程)

専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、豊かな学識に基づいた高度な研究能力を備えた、人材を養成する。

総合基礎科学研究科

本研究科の目標は自然と人間との共生という理念のもとに、地球に優しい科学・技術の探求と確立を目指すところにある。本研究科は、以下の2専攻から構成され、多彩な境界領域で接する両専攻が横断的に結ばれているところに特色があり、それぞれの学問領域を融合させた総合的な教育・研究を通じて、以下に記した特色ある人材の養成を目指している。

- 1 専門分野に対して、深い学識と優れた思考力を持つ人材の養成
- 2 専門分野や関連分野を幅広く理解し、それらを柔軟に応用できる人材の養成
- 3 新しい社会や産業の動向を迅速に解析し、広範な知識と能力を発揮できる人材の養成
- 4 学際的学問領域の学習を通じて、新しい学問の芽を育てる創造性豊かな人材の養成
- 5 国際的視野と見識で新しい科学技術の問題を正視できる人材の養成

(地球情報数理科学専攻／博士前期課程)

研究科の目的に沿うべく、本専攻においては、地球環境部門、情報科学部門、基礎数理部門を主な研究部門とし、これら3部門の複合化を目指している。

(地球情報数理科学専攻／博士後期課程)

研究科の目的に沿うべく、本専攻は、地球環境部門、情報科学部門、基礎数理部門から成り、3部門の複合化を目指し、3部門が学際的に協力し合うことを目標としている。

地球環境部門：地球を構成する物質の研究に基礎を置くと同時に、地球各圏の相互関係の解明を目指す。

情報科学部門：コンピュータ科学・ソフトウェア科学・数理情報科学における、様々な課題の解決を目指す。

基礎数理部門：情報科学、地球科学と関連させながら、基礎数学の側面から数理科学の発展を目指す。

(相関理化学専攻／博士前期課程)

研究科の目的に沿うべく、本専攻は、物理学、化学及び生命科学という幅広い自然科学分野におけるさまざまな対象の構造・相互作用・反応・機能等に関し、基礎と応用の両面から理論的・実験的研究と教育を行う。

本専攻は、物理学部門、化学部門及び生命科学部門の3部門からなり、それぞれの部門が学際的に相互に補完するように構成されている。

(相関理化学専攻／博士後期課程)

研究科の目的に沿うべく、高度な知識と技能をもつ研究者の養成を行う。

物理学部門：理論的・実験的に物理現象の統一的解明を目指す。

化学部門：「化学」の領域は大変に広く、種々の物質や現象の化学的解明を目指す。

生命科学部門：様々な生命現象を対象とし、分子レベルから生態系レベルでの解明を目指す。